



学校だより

平成27年12月11日 No. 25

教育目標

- か 考える子ども
- が がんばる子ども
- や やさしい子ども
- け 元気な子ども

こたき

☎ 92-4013
FAX 92-4019

いわき市立小名浜西小学校長 高木清美

小滝っ子まつり、歓声響く

子どもたちが楽しみにしていた小滝っ子まつりが、2日（水）に行われました。この行事は、学年を超えて、全校児童みんなで協力して楽しむことをねらいとして行うものです。班の5・6年生が中心となって、どんなアトラクションにするか企画をまとめて、準備を進めてきました。低学年の子にも分担を与え、仕事を教えてあげる姿やみんなで景品を用意する姿など縦割り班ならではの微笑ましい光景がたくさん見られました。



かつて近所の子どもたちが学年を超えて集まって遊んだ時代のように、子ども達同士の間でいろいろなことを学べたらいいなと思います。もちろん、うまくいかないことやトラブルもあるでしょうが、それこそが人間関係を学ぶいい機会だと思います。（人間関係を学ぶには「子どものことは、ある程度子どもに任せる覚悟」が大人には必要だ、と私は考えています。）5・6年生が下学年の先頭に立ち、下学年の子が笑顔でついて行く姿を見て、そんな思いになりました。小滝っ子まつりの様子は、西小ホームページでもご覧いただけます。

4年総合

体の不自由な方の福祉について学ぶ

4年生は、総合的な学習の時間に体の不自由な方々の福祉について学んでいます。このほど、耳の不自由な方と目の不自由な方を講師にお招きし、生活の様子や困っていることなどの話を伺いました。聴覚障がいの方からは、手話などを通じたコミュニケーションの仕方を教わり、自己紹介ができるようになりました。「翼をください」の歌に合わせた手話にも挑戦しました。



盲導犬と暮らす視覚障がいの方からは、目が見えなくてもできることはたくさんあることや盲導犬との心の絆についてのお話を伺いました。目隠しをして、白杖体験や盲導犬体験もさせてもらいました。

障がいを持つ方は、健常者には分からない苦労や悩みがありながらも、懸命に生活していることを知り、子どもたちは、自分たちができることを真剣に考えることができました。



県作文コンクール いわき地区特選（市代表）作品

ぼくの家のおきなになわ

3年 有我和真

ぼくの家には、学校のすな場より少し広いくらいの小さになわがあります。アパートなので、ボールで遊ぶのにもせまいくらいの小さになわです。暑い夏を少しでもすずしくするために、ふうせんかすらのグリーンカーテンを作っています。ぼくがねているふとんよりも大きなネットをはって、窓一面をグリーンカーテンにします。そのほかにも、朝顔やお花をいくつか育ててい

ます。夏休み中のお手伝いとして、お母さんから毎日の水やりと草とりをたのまれました。暑くなる前の朝の内に、水やりを終わらせるようにしています。朝一番に、朝顔の花がさいているのを見つけると、すごくうれしい気持ちになります。ある日水をあげていたら、ふうせんかすらの白い花にハチが来ていました。ぼくは「朝ごはんのみつをすいに来たのかな。」

と、思いました。ぼくは気になって、虫の図かんでハチのしゅるいを調べてみました。来ていたハチは、クマバチと足長バチだと分かりました。ハチの頭には、たんがんとという小さな目がついていて、集めた花のかふんは足につけてすにはこぶそうです。またちがう日には、モンシロチョウとクロアゲハとアゲハチョウが来ていました。毎日いろいろな虫が来てくれるので、ぼくは水やりのお手伝いが楽しくなりました。

ちがう日に草とりをしていると、お花のプランターのかげにカナヘビがいました。学校では、何度か見たことがあるけれど、家のにわで見たのは初めてです。カナヘビを見たいしゅん間、ドキッとしました。お母さんは、せんたく物をほす時にカナヘビに出会って、こわがっていました。でも、ぼくは、ほかの虫のようににわに来てくれる生き物がふえて、またうれしくなりました。

草とりをしていると、いろいろな事に気がつきます。ふうせんがずらのたねをうえていない地面から、小さなめが出ているのを見つけました。お母さんに知らせたら、「たねをまいたときに、落ちたたねが育ったんだね。」と、いいました。ぼくは、そのふうせんかずらにも水をあげる事にしました。夏の間はそのふうせんかずらは、ぐんぐん大きくなりました。グリーンカーテンのふうせんかずらより、後からめを出したのに、窓のネットをおいこすくらい元気いっぱいです。お父さんが「石の間のかたい

土で育っているのに、このふうせんかずらは強いな。」と、いいました。最初ぼくは、お父さんの言葉の意味がよく分かりませんでした。グリーンカーテンのふうせんがずらは、ひりょうもあげて、やわらかい土で育てています。地面のめは、石もあって草とりをするのも大へんのかたい土でも、強く育てていきました。そのちがいをお父さんが教えてくれました。ぼくは、そのめに、負けない強さを感じました。草とりをして、こんな気持ちになるとは思いませんでした。ますます夏休みのお手伝いが楽しくなりました。

それでも、暑い夏に草とりをするのは、あせだくなるし、のどはからからになって大へんだなと思った事もあります。だけど、ぼくが水をやれない日があると、花がしぼんで元気がなくなってしまうので、がんばって続けました。こんなせまいぼくのになわでも、毎日いろいろな発見があつて楽しかったです。

もうすぐ今年の夏も終わってしまいます。秋になったら、家族でふうせんかずらのたねをとります。また来年もいっば虫や生き物に来てほしいので、春になったら、そのふうせんかずらのたねを家族みんなであげたいと思います。来年は、お手伝いとしてではなく、自分から進んでお世話したいと思っています。そして、ふうせんかずらを一っばい育て、小さくてもにぎやかなぼくのになわにしたいです。



今週の月曜日の放送朝会で、和真君が作文を読み上げ、全校生に紹介しました。

夏休みのお手伝いをきっかけにいろいろな発見をしたことが、生き生きとそして素直に表現されています。小さな庭に訪れる生き物との触れ合いを楽しむ心、固い地面に育つ芽の力強さへの感嘆の気持ち、そして家族の温かいまなざしがよく伝わってきます。作品の最後の文で「ぼくのになわにしたいです」と、言えるまでになった和真君の庭への思いの変化が感じられ、よい締めくくりとなっています。